



国立循環器病研究センター
National Cerebral and Cardiovascular Center

HEADLINE

病院長就任 ご挨拶



健康講座

経皮的卵円孔開存閉鎖術

脳梗塞再発予防のための卵円孔開存症に対する
新しいカテーテル治療

最新の医療 研究の話題

ヘリポート運用開始に伴う 広域医療連携への期待

新任部長紹介

オープンイノベーションセンター長
看護部 看護部長
薬剤部 薬剤部長

39

2020 SPRING

病院長就任ご挨拶

世界に冠たるエクセレント・ホスピタルを目指します

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 病院長
飯原 弘二

2020年4月1日をもって、国立循環器病研究センター病院長に就任しました。国立循環器病研究センターは、昭和52年に循環器疾患の究明と制圧に挑むために設置された、心臓血管と脳だけに特化された、高度専門医療研究センターです。病院長就任にあたり、目標を「世界に冠たるエクセレント・ホスピタルを目指す」こととしました。

私は昭和62年に京都大学医学部を卒業し、ただちに京都大学脳神経外科（当時 菊池晴彦教授、国立循環器病研究センター名誉総長）に入局しました。国立循環器病研究センターには、大学院卒業後、2013年まで14年間在籍しましたが、その当時、脳血管障害を中心に、最先端の脳神経外科医療に没頭する充実した毎日を過ごしました。また、橋本信夫総長時代には、本邦初の本格的なハイブリッド手術室が導入され、複雑な脳血管障害に対する低侵襲かつ安全なハイブリッド治療法を開発しました。脳血管部門長に就任してからは、本邦初のDPC情報を活用した、脳卒中・脳神経外科データベース事業（J-ASPECT Study、現在100万件以上の登録）を立ち上げ、これは、のちに日本循環器学会のデータベース事業（JROAD-DPC）の原型となりました。その後、J-ASPECT Studyのネットワークで多施設共同研究を推進するとともに、初代の教育研修部長として、次世代の脳卒中・循環器病のリーダーを育成する、センターのミッション（レジデント・デイの開催など）を実践することができました。国循で過ごした日々は、まさに外科医としても、研究者としても、本当に触発される毎日でした。

私が在籍していた期間に、国循は、移植医療、超急性期脳卒中・循環器病の救急医療の発展、再生医療や各種薬物療法の進歩、人工心臓や脳動脈瘤用のカバード

ステントの開発など、医工連携の分野等において、世界の中で中心的な役割をはたして来ました。

2013年に九州大学脳神経外科教授に就任してからは、しばらく大学人として、外部の視点からセンターの発展を眺めておりました。心臓血管と脳だけに特化された、高度専門医療研究センターは、世界的にも例がなく、このコンセプトを提唱された創設時の関係者の皆様の慧眼に改めて敬意を表したいと思います。奇しくも「脳卒中・循環器病対策基本法」が施行された昨年、国立循環器病研究センターは、岸辺の地に新築・移転し、診療・研究環境が飛躍的に改善されました。この恵まれた環境を最大限に活用し、国民の健康と幸福のため、「最先端のその先に」をスローガンにかかげ、世界に冠たるエクセレント・ホスピタルを目指したいと思います。

近年、特定機能病院には、特に医療安全の文化の醸成が強く求められています。Human Errorの著者、James Reason先生は、組織の安全文化として、「報告する文化」、「公正な文化」、「柔軟な文化」の3つが揃って、初めて「学習する文化」となると述べています。医療を取り巻く環境は、ますます複雑となり、厳しい状況となっている今、職員間の共創的なコミュニケーションを高めて、学習する組織に変革していくことが大切であると考えています。病院の理念、アクションプランを、全ての職員が自らのミッションと紐づけて、患者中心の医療の中で、常に変化に挑み、継続的な改善を達成しうる組織にしたいと考えています。

私たちは、新しく大きな一歩を踏み出しました。時に創設時の原点に立ち戻りつつ、さらなる高みを目指します。新生、国立循環器病研究センター病院をどうぞよろしくお願いいたします。

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 病院長 飯原 弘二 Koji Iihara

〈専門領域〉

- 脳血管障害の外科・血管内治療、ハイブリッド治療
- 脳血管障害のデータベース研究（J-ASPECT Study）
- 虚血性神経細胞死に関する研究

〈略歴〉

1987年3月	京都大学医学部医学科 卒業	2000年7月	国立循環器病センター 脳血管外科
1987年6月	京都大学医学部付属病院 脳神経外科	2004年10月	同 医長
1988年3月	天理よろづ相談所病院 脳神経外科	2009年7月	同 部長
1989年4月	静岡県立総合病院 脳神経外科	2009年11月	京都大学医学部 臨床教授
1990年4月	京都大学大学院医学研究科 入学	2010年4月	国立循環器病研究センター 教育・研修部長(併任)
1994年3月	京都大学大学院医学研究科 単位取得退学	2010年9月	同 脳血管部門長
1994年4月	国立循環器病センター 脳血管外科	2013年10月	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授
1994年9月	国立循環器病センター研究所 病因部脳外科研究室	2017年4月	国立循環器病研究センター 副院長(非常勤)
1995年6月	市立舞鶴市民病院 脳神経外科	2018年4月	九州大学病院 病院長補佐
1997年4月	カナダ トロント大学医学部 Research Fellow	2020年4月	国立循環器病研究センター 病院長
1999年7月	カナダ トロントウエスタン病院 Clinical Fellow		

健康講座

経皮的卵円孔開存閉鎖術

脳梗塞再発予防のための卵円孔開存症に対する新しいカテーテル治療

心臓血管内科部門 肺循環科 大郷 剛
心不全科 天野 雅史 森内 健史
脳内科 塩澤 真之 肺循環科 浅野 遼太郎

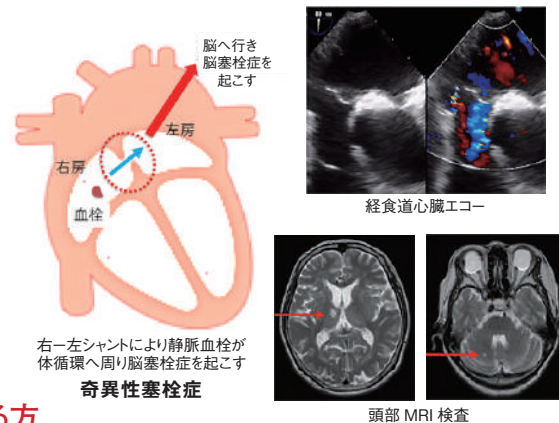
関連サイト



1. 卵円孔開存と脳梗塞

卵円孔とは、右心房と左心房の壁（心房中隔）に空いている穴のことで、通常胎生期（お母さんのお腹にいる時）は開存して、生後2-3日で自然閉鎖します。一方、2-3割で自然閉鎖が起らず**卵円孔開存**として小さな穴が残存します。通常は、この卵円孔があっても問題となることはありません。しかし、稀にこの小さな穴を通して、足などの静脈にできた血栓が、右心房から左心房に流れ、その血栓が脳に行けば脳梗塞の原因となります（奇異性塞栓症）。この治療はこの穴を通して脳梗塞を起こされた方を対象として穴を閉じることで**脳梗塞の再発を予防する治療**です。

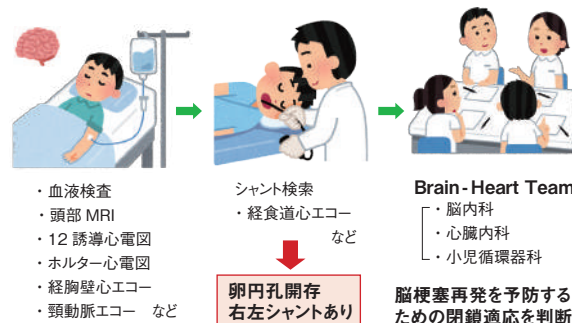
卵円孔開存(PFO)による奇異性塞栓症



2. カテーテルによる卵円孔開存閉鎖治療の対象となる方

- 脳卒中専門医（脳内科）で卵円孔を介した脳梗塞であると診断され、「**潜在性脳梗塞の診断基準**」に合致した方です。
- 上記診断のうえで循環器専門医（心臓内科）が経食道心エコー検査を用いて卵円孔に関する形態的な評価を行い、「ブレイン（脳）ーハート（心臓）チーム（脳内科・心臓内科・小児循環器科）」で検討して卵円孔開存閉鎖治療に対する適応を決定します。

潜在性脳梗塞



3. カテーテルによる卵円孔開存閉鎖治療の目的

カテーテルで卵円孔開存閉鎖術を施行することで、**卵円孔開存が原因でおきる脳梗塞の再発を内服治療（血液をさらさらにする薬）と比較して大きく軽減させることが証明されています。**

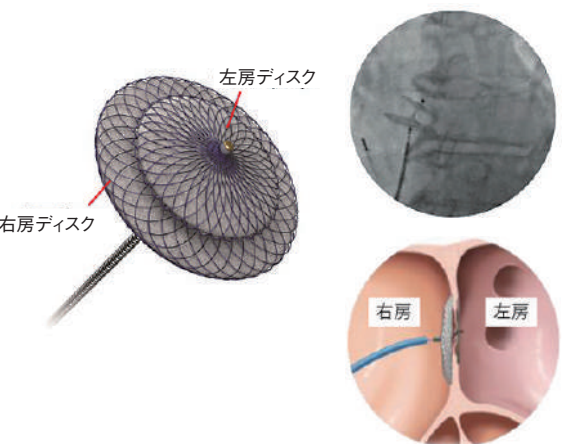
4. カテーテルによる卵円孔開存閉鎖治療の実際

本治療で使用するアンブラッツアー卵円孔開存閉鎖栓は、真ん中の部分がくびれた形をしており、両側の広がった部分（ディスク）とくびれた部分には、特殊な布（ダクロン）が縫い付けられています。このウェスト部分を卵円孔に合わせるように入れて、左右のディスクで穴の両側から挟み込むようにして穴を閉じます。全身麻酔または局所麻酔で行い、カテーテルを太ももの付け根の静脈（大腿静脈）から挿入手技を行います。

同様の素材を用いた心房中隔欠損症に対するカテーテル閉鎖術はすでに日本で1万人以上に行われており、良好な治療成績が報告されています。また、この閉鎖栓はMRIにも対応しており、治療後はこれまで通り必要に応じてMRI検査を受けることができます。治療後は一定時間ベッドの上で安静にして頂いた後、翌日から歩くことが可能です。

閉鎖栓による卵円孔閉鎖治療

カテーテルによる閉鎖治療



新任部長紹介

次世代オープンイノベーションから研究の進展と研究成果の社会的実装をすすめます

オープンイノベーションセンター長 宮本 恵宏（みやもと よしひろ）

4月からオープンイノベーションセンター（OIC）長に任命されました宮本恵宏です。私はこれまで、予防医療、臨床研究、医療情報、ゲノム医療、バイオバンク事業等に携わってきました。これからは、さらに多くの方々から様々なアイデアや技術を頂いて循環器病の克服のための新結合（イノベーション）につなげていきたいと考えています。オープンイノベーションセンターは、産学連携本部、バイオバンク、循環器病統合情報センター、創薬オミックス解析センター、教育推進部をコアとして、研究所や病院とともに、様々なアイデアや技術を結集して、これまでになかった研究成果と社会実装の実現を目指す組織です。オープンイノベーションラボ（OIL）には、国循とともに研究開発を行う様々な民間企業や学術団体が入居して活動を開始しています。研究者、企業の方々だけでなく、多くの患者さん、住民の皆さんの協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。



2000年 国立循環器病センター
動脈硬化代謝内科医員
2015年 国立循環器病センター
臨床研究開発部医長
2010年 国立循環器病研究センター
予防健診部長
2020年 国立循環器病研究センター OIC 長

最先端の医療の提供と質の高い看護をきわめる！

看護部 看護部長 空山 直子（そらやま なおこ）



1985年 国立京都病院 外科・脳神経外科、手術室
1993年 国立京都病院 副看護部長
1997年 国立舞鶴病院 看護部長
2002年 国立京都病院 看護部長
2008年 国立病院機構滋賀病院 副看護部長
2010年 国立循環器病研究センター 副看護部長
2013年 国立病院機構和歌山病院 看護部長
2018年 国立病院機構近畿グループ 看護専門職
2020年 国立循環器病研究センター 看護部長

このたび、4月1日付けをもちまして、看護部長を拝命しました。国循での勤務は7年ぶりになりますが、当時のスタッフが副看護部長や看護師長になっている姿を見ますと、専門職としての成長を実感すると同時に、非常に心強く思っているところです。

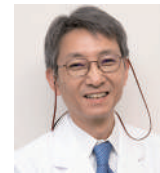
今年度の看護部は、「最先端の医療の提供と質の高い看護をきわめる！」をスローガンに掲げ、質の高い看護を提供するために、人材育成と人材の有効活用への取り組みをさらに強化しつつ、医療チームの一員として看護部組織が病院運営及び地域医療連携に貢献できるよう努力してまいりたいと考えております。

就任早々、今までに経験したことのない事態にあたふたしておりますが、一人一人の看護師が元気にやりがいや達成感を感じ、循環器病看護のプロとして活躍できる環境を整えていきたいと思います。

もとより微力ではございますが、皆様のお力添えを頂き、職務に精励する所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

変化を恐れず挑戦する心を持ち続け、さらなる高みに到達できるよう努力します

薬剤部 薬剤部長 早川 直樹（はやかわ なおき）



この度、令和2年4月1日付で薬剤部長に着任しました早川と申します。

私は大学卒業後、薬剤師研修生として国立循環器病センターで数か月間研修をしていました。卒業したばかりの私にすれば、当時の循セン薬剤科は男性ばかりでかなり個性的で恐ろし気な先生方の集団でした。「大声で」「遅くまで仕事をしているのによく遊んで」「大酒を飲む」という…何と申しましょうか、いかにもTHE昭和でした。しかし先輩薬剤師たちは今の仕事に飽き足らず、何か新しい薬剤師像をつかもうと必死でもがいておられた様子が印象的でした。

あれから30数年の月日が流れ再び国立循環器病研究センターで働くこととなりました。この間、病院薬剤師の業務は多岐多様なものとなり、今では「薬剤師が毎日病棟に居ることは当たり前」の時代を迎えました。これは変化を恐れず挑戦し続けたこと、また絶え間なく多職種の医療従事者とコミュニケーションをとり続けたことが導いた結果だと思っています。

今後も変化を恐れず挑戦する心を持ち続け、薬剤部の仲間とさらなる高みに到達できるよう努力するつもりです。どうぞ皆様ご指導のほどよろしくお願いいたします。

1986年 国立病院入職後近畿各施設7か所をめぐり
2016年 国立病院機構南和歌山医療センター
薬剤部長
2020年 国立循環器病研究センター 薬剤部長

最新の医療
研究の話題

ヘリポート運用開始に伴う 広域医療連携への期待

心臓血管内科 田原 良雄

「心臓血管内科」サイト



国立循環器病研究センターでは、2019年7月の移転に伴い新病院の屋上に最大重量9トンまでのヘリコプターの離着陸が可能なヘリポートを新設しました。積載量が大きなヘリコプターを利用できることは補助循環装置を装着した重症心不全の転院搬送に有利です。

2019年7月から2020年3月までのヘリポート利用件数は17件（臓器搬送3件、転院搬送9件、救急搬送5件）でした。搬送元の病院は広島県、岡山県、石川県、滋賀県、愛知県、徳島県、高知県、和歌山県、兵庫県と広範囲です。以前は陸路で3時間以上を要していた搬送もヘリコプターを使用すると1時間以内で移動可能となりました。ヘリポートの運用は広域医療連携に寄与しています。

脳卒中や急性心筋梗塞などの循環器救急疾患は、発症から専門的治療までの時間の長短が患者の予後を左右します。

救急現場から患者搬送に利用される救急車の速度は時速40km程度です。救急車が15分で移動できる距離は

10kmです。ところが、ヘリコプターは時速240kmで飛びます。これを利用すると15分で半径50kmの範囲をカバーできます。通常は救急車で45分以上を要する（30km以上離れた）範囲はヘリコプターによる搬送が有利です。

2020年2月に大阪府能勢町救急隊と大阪大学医学部附属病院の大阪府ドクターヘリの連携により急性心筋梗塞患者が国立循環器病研究センターに搬送されました。ドクターヘリにより救急搬送された急性心筋梗塞患者の発症から緊急カテーテル治療の成功までの時間は116分でした。

急性心筋梗塞は冠動脈の閉塞により発症します。後遺症を軽減するために国際ガイドラインでは発症から緊急カテーテル治療による閉塞した冠動脈の再灌流の成功までの目標時間を120分以内としています。この症例はヘリコプターによる搬送を選択することで目標時間を達成できました。

ヘリポートの利用は専門病院で緊急治療を必要とする循環器救急疾患患者の診療圏の拡大に貢献しています。



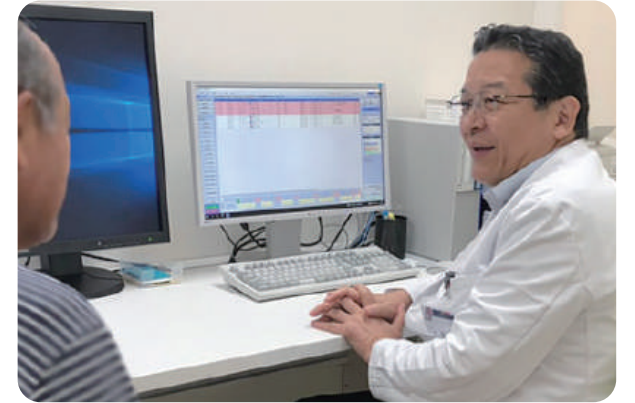
「つながる」
国循がご協力いただいているクリニック様を紹介します

脳神経外科・循環器内科

大阪なんば クリニック

なか がわら じょうじ
院長 中川原 譲二 先生

2018年10月に、大阪「みなみ」の交通の要衝であるなんば駅に隣接するなんばスカイオ9Fに、人々の健康を支える拠点として「大阪なんばクリニック」を開院させて頂きました。当クリニックは、先進外来と予防検診センターの機能を有し、循環器病や脳卒中の一次予防・二次予防、消化器がんや女性がんの早期発見、痛みの治療などに力を入れています。私が国立循環器病研究センターで担当していた「もやもや病専門外来」についても継続しております。特に、近隣地域の皆様には、安心して満足頂けるように努力して参りますので、よろしくお願いいたします。



【診療科目】脳神経外科・循環器内科
【所在地】〒542-0076
大阪市中央区難波 5-1-60
なんばスカイオ 9F
【TEL】06-6648-8930
06-6648-8571（健診予約）
【アクセス】南海なんば駅から徒歩1分



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	／
午後 14:00～18:00	○	○	○	○	○	○	／

【休診日】日曜日・祝日

「大阪なんばクリニック」サイト



減塩食のレシピ

一品料理レシピ

かるしおプロジェクトは「塩を軽く使って美味しさを引き出す、減塩の新しい考え方」です。

「かるしおプロジェクト」サイト



彩り夏野菜のキーマカレー（材料2人分）

〈キーマカレー〉

材料

牛ひき肉	100g	ダストマト(缶)	20g	バター	4g
たまねぎ	100g	だし汁	60g	生クリーム	2g
にんじん	40g	カレールー	20g		
オリーブ油	8g	カレー粉	1g		

作り方

- ①たまねぎ、にんじんは5mm角のさいの目切りにする。
- ②フライパンにオリーブ油を敷き、たまねぎ、にんじんを炒め、しんなりしてきたら牛ひき肉を加えさらに炒める。火が通ったらダストマト、だし汁を加え沸騰させる。
- ③火を止めカレールー、カレー粉を加え、溶かす。再度火を点け、トロミが出るまで混ぜ、仕上げにバターと生クリームを加える。



1人分エネルギー
(ご飯含む)
582kcal
塩分1.5g

〈彩り夏野菜〉

材料

茄子	40g	アスパラガス	15g	オリーブ油	8g
ズッキーニ	40g	黄パプリカ	30g	八方だし	60g
オクラ	40g	赤パプリカ	30g	ミニトマト	30g

作り方

- ①茄子、ズッキーニは1cm角のさいの目切りにする。
 - ②オクラ、アスパラガスは1cmの長さに切る。
 - ③黄パプリカ、赤パプリカは種を取り、1cmの色紙切りにする。
 - ④フライパンにオリーブ油を敷き、①、②、③を炒め、バットに移し八方だしに浸す。
 - ⑤鍋に八方だし、ミニトマトを入れ、一煮立ちさせる。火を止めそのまま浸ける。
- ※「八方だし」の作り方は前号をご覧ください。

〈ボイルエッグ〉

材料

卵 40g

作り方

- ①茹で卵を作り、殻を剥き、輪切りにする

盛り付け

器にご飯 150gと《キーマカレー》を盛りつける。《彩り夏野菜》の浸し汁を切り、《キーマカレー》の上に盛り、《ボイルエッグ》を添える。彩りで乾燥パセリを適宜振る。

電車利用の場合

JR大阪駅・新大阪駅・京都駅から

■ JR 京都線「岸辺」駅より約300m
(連絡通路で直結)

阪急大阪梅田駅・京都河原町駅から

■ 阪急京都線「正雀」駅より約800m

自動車利用の場合

■ 名神高速道路「吹田 IC」より約6km

■ 中国自動車道「中国吹田 IC」より約6km

■ 近畿自動車道「摂津北 IC」より約10km



新センター住所

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号

国立循環器病研究センター理念

私たちは、国民の健康と幸福のため、高度専門医療研究センターとして循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

基本方針

- 1 循環器病のモデル医療や世界の先端に立つ高度先駆的医療を提供します。
- 2 透明性と高い倫理性に基づいた安全で質の高い医療を実現します。
- 3 研究所と病院が一体となって循環器病の最先端の研究を推進します。
- 4 循環器病医療にかかわるさまざまな専門家とリーダーを育成します。
- 5 全職員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを実践します。

